



15年ほど前に海岸を散歩中の老人が見つけた「元文小判」。時価約30万円（現在は館山市立博物館蔵）

アメリカのフロリダ半島は宝探しの聖地といわれる。大西洋に面する東海岸では、沖合に沈む船から流

16世紀から19世紀初頭にかけて、中南米を統治したスペインは、現地で採掘した金銀玉石を本国に届けるための船団を組んだ。ところが、たびたび嵐にあつて

沈没した。フロリダ東岸からカリブ海にかけては、そういった宝船の密度が世界でも最も濃い海域なのである。スケールではフロリダには遠く及ばないものの、日本にも似た場所がある。千葉県房総半島だ。筆者が足繁く館山市の塩見海岸に通うようになったのは7年前から。その10年ほど前に、海岸を散歩中の老人が本物の元文小判を拾ったことがある。沖合には時代的に整合する船が3隻沈んでいて、そこから流出し、波に洗われ砂浜に打ち上げられたものに違いない。

拾った老人も「1枚だけのはずはない」と言っ。筆者もあと数十枚、いや数百枚はあるのではないかと考えた。それ以来、夏場だけ毎年1〜2回、仲間と一緒に通って小判探しを続けてきた。波打ち際は金属探知機でほぼ調べ尽くし、海中に足を踏み入れて、水面から目視できる範囲を調査中だ。沈没船まではかなり距離があるので、ゆくゆくはスキューバを使った本格的な水中探査もやりたいと思

っている。

夢とロマンの宝探し

最終回 千葉県房総半島を宝探しの聖地に！

作家、トレジャーハンター 八重野 充弘

「捨てた老人も「1枚だけのはずはない」と言っ。筆者もあと数十枚、いや数百枚はあるのではないかと考えた。それ以来、夏場だけ毎年1〜2回、仲間と一緒に通って小判探しを続けてきた。波打ち際は金属探知機でほぼ調べ尽くし、海中に足を踏み入れて、水面から目視できる範囲を調査中だ。沈没船まではかなり距離があるので、ゆくゆくはスキューバを使った本格的な水中探査もやりたいと思

っている。

さらに、内陸部には、有名な里見家の財宝伝説（旧千鳥町/現南房総市）や、市原市金剛地の成島家に伝わる埋蔵金伝説がある。後者は昭和初期に埋蔵秘文が公開されたため、全国から埋蔵金マニアが詰めかけて、発掘チームに沸いたという。実は筆者も40年近く前、協力を頼まれて発掘チームに参加したのを皮切りに、数年おきにこれまで

10回近く訪れている。房総半島は地形的にもフロリダ半島との共通点があるから、日本のトレジャーハンティングの聖地になっても、けっしておかしはないのだ。誰もが気軽に楽しめるお宝探しの時代が、房総半島を舞台に本格化することを願っている。

（最終回）

仲間と楽しむ宝探し
この場所で初めて宝探しを体験した仲間も何人かいるが、みんなその面白さにすっかりハマってしまい、嬉々として水に浸かっている。そう、筆者は前からこういうことがやりたかったのだ。どこかでお宝を発見するのが最大の目的ではあるが、仲間といっしょに楽しむ宝探し。欲に目がくらんだ昔の埋蔵金掘りとは一線を画す、健全な形のトレジャーハンティング。それが房総半島ではできそうだ。なぜなら、まずターゲットが多いこと。沈没船だけでも館山沖にとこまらな



水中は箱眼鏡やレーキなどを使って探る



砂浜を金属探知機を使って探す

〈やえの みつひろ〉



1947年、熊本県生まれ。立教大学社会学部卒。学習研究社、くもん出版でおもに子ども向けの雑誌の編集に携わりながら、1974年に天草四郎の隠し財宝の調査に着手、以後、徳川の埋蔵金など全国各地の伝説を調べ、実際に発掘調査を行った場所も10数カ所に上る。まだ発見したものは少ない。著書は『日本の埋蔵金100話』『埋蔵金伝説を歩く〜ほくはトレジャーハンター』『埋蔵金発見！ 解き明かされた黄金伝説』など。趣味は映像制作。